

第1回総務部会 議事録

(1) 日 時：令和8年6月24日（水）午後7時より、（教育会館 第2研修室）

(2) 参加者：委員7名、欠席1名、事務局5名

(3) 内 容

① 部会長あいさつ

② 協議事項

- ・校旗について
- ・校歌作成の進捗状況について
- ・校訓について

部会長あいさつ》（省略）

《協議事項》

事務局 ・ 本日は、校旗デザインについて協議いただく。そのあと、校歌作成の新捗状況をお知らせしたあとに、校訓について、事務局案を提案させていただき、ご意見をいただきたいと思いますと考えている。

部会長 ・ 今の事務局からの説明のとおり協議を進めさせていただく。それぞれのテーマに沿っての詳細な説明を事務局に願います。

（校旗について）

事務局 ・ 簡単にこれまでの審議を説明させていただく。資料1をご覧ください。この校章選定にあたっては2年間の非常に長い議論を経て今日に至っている。校章作成にあたって、市民の皆様にとどのようなものを望まれるかといったアンケートを行っている。また、この旗の色についても校名を決めるときに活用できるよう、どんな色が勝山中のカラーとしてよいかといった意見も聞いている。そのアンケート結果をベースに校章デザインの公募を行った。市内外から多くの応募いただいたが、最終的にこの校章に決定した。これは高校の生徒が作ったデザインで、段階を追って審査を進めてきたが、常に一番票が集まった作品で最終的には満場一致で、決定いただいたもの。このデザインは花びらが横に開いたような形になっており、勝山の花であるサツキをモチーフにしたデザインになっている。上はつぼみで、これから花開いていく自分たちの様子を表したものの、また下の額については、それを支える地域の方の力を表していると聞いている。経緯は以上だが、最終的にこのデザインを選考した後、1月の第6回の総務部会の時に、この背景色をどうするかを議論いただいた。モノクロのデザインで応募いただいたので、どのような色で校旗・校章にしていくかを協議いただいた。

- ・ 市民アンケートの中では、青色系が最も多く、僅差で緑系の意見が多かった。青、緑、青緑のサンプルを作成し委員にご覧いただいた。また、作者の意向でピンクも作って提案した。また、作者の提案で、勝山の文字が裏地になる場合と、色のついた部分になる場合の2種類も提案し検討いただいた。そこで出された意見は、勝山という文字に色がついている方が映えるとか、校章や校旗では、勝山の文字を金糸で表示した方が、重厚感や格調が感じられるのではないかと。また、ピンクは軽い感じがあって校章のイメージに合わない。中間的な青緑については、発光色のように見えて見えにくい。緑や青がいいが明るすぎると軽くなるので、深みのある色がいいのではないかと。青はネクタイの色とも関連性があるといい。緑色は勝山の自然を表現できているし現在の三中学校ではなく、新しい学校なので新しいものもいいといった意見もいただいた。また、花びらだけ別の色にするような多色使いの可能性も検討してはどうかといった意見もいただいた。最終的にはここで決定しないが、今後は反転案を基本として、重厚感のある濃い青色系とか、緑色系を中心に検討してはどうかという方針が示された。これがこれまでの経緯。

	・以上の議論を踏まえて、資料 2, 3 と 2 枚の資料を業者に依頼し今日の資料を作成した。1 枚目は、裏地の色が花びらのところに出てくるデザインで、2 - 1 はハイライトブルー、2 - 2 は深見みのあるグリーン、2 - 3 は少し落ち着いた紫紺を提案をさせていただいた。2 枚目の資料は裏地に銀地が入っているもので色は 1 枚目と同じ。この提案をもとに議論を進めていいということであれば、1 点目としては、校章に銀地が入っているものと裏が透けて見えているもののどちらが良いか。2 点目としては、下地の色は青色系がいいのか、緑色系がいいのか、また青色系については、紺に近い青色がいいのか、ハイライトブルーというまさに青というような色が良いか。3 点目は勝山市立勝山中学校という文字を横に入れるか、縦に入れるか、どちらが良いかという 3 点について意見をいただきたい。なお、カラープリントすると色目がよくわからなくなってしまう。生地見本を用意したのでご覧いただきたい。
部会長	・今の説明にご質問ご意見があれば発言していただきたい。
委員 1	・ちょっと伺いたい。先ほどの説明で今の中学校に、この色は三中学校にはないという話があったが今の中学校のスクールカラーはあるか。もしそういうのがあるのなら、ダブらない方がいいのかと思った。
事務局	・色を言葉で説明するのは難しいが、南部中学校はえんじ色。中部中学校は紫に近い青。北部中学校に明確なスクールカラーはないが校旗を見ると、紫色の上に銀色のものとなっている。
委員 2	・いくつかあるが、ちょっとわかりにくかったのは、出されている資料は従来案なのか反転案なのか。
事務局	・今日、提案しているのは、前回の協議を踏まえて、勝山の文字が浮かび上がるようにすべて反転案で提案している。
委員 3	・勝山の文字だけが、白くなっているのが従来案で、文字の部分に色をつけるために白黒を逆にした方がいいのではないかとというのが反転案。文字のところに刺繍があるものが、出ているので反転という表現をしている。
事務局	・反転案については、事務局が考えたのではなく、デザインを応募した生徒が校章をイメージした時こちらの方がいいのではないかと提案いただいたもの。今日の資料はすべて反転のデザインである。
委員 4	・中学校のイメージがどういうものかということも考えた方がよい。色を議論することになると委員の好みで判断することになってしまう。青系にするのなら濃い青、薄い青、標準の青のどちらが良いかの議論はできるが、青にするか緑にするかの議論は難しい。作者さんのご意見を尊重するとか、イメージとしてネクタイが青系に決まったのも、たぶん理由があると思うので、そこからも協議する方がよいのではないかと思います。
事務局	・ネクタイの色のベースは青色である。
部会長	・流れとしてはそういう思いで、同じことをまた今年度末は繰り返したくはないという決意。そのあたりで、皆さんの意見を聞いたということもしながら、最初から仕様を決めてしまうと、なぜかという意見を防ぐためのことだと思う。そういうことでよろしいか。
事務局	・そういうことである。
部会長	・色のところに議論が集中しているが、色を決める前に別の視点で議論を進めたい。2 枚を見比べると、その花びらの花弁のところ白くなっているのと、その地がそのまま出ているものと思うが、まずこの点についてどちらがいいか意見を伺いたいと思う。最初の方は文字がそのまま出てきている形で、もう 1 つ方は、ベースの部分に銀色が入っているもの。ちょっと見にくい感じも受ける。
委員 5	・その時点で、結論はもう決まっているのではないか。
部会長	・同じ意見が多いかなと思い、うかつなことを言ったが、まずどちらのほうがいいかということ、ご意見があればお聞きしたい。
委員 6	・2 つを比べた場合は、やっぱり個人的な意見だが、やっぱり上のほう（下地

部会長	が銀ではない方)が見やすい。下の方(下地が銀地)は銀色に見えるけれども、勝山という字がちょっと見にくい。だから私は上の方が良いと思う ・議論をしても難しいので、皆さんのご意見をお聞きしたい。下地が銀ではない方が良いと思う方は挙手をお願いしたい。(多数挙手だが、悩ましいとの声もあり)
委員 7	・悩ましいというのは、銀糸を入れるとフラットになるのかなと思う。刺繍部分だけがボコンと盛り上がり、全部、平らにあった方が良いのか、高くなつた方がいいのか、ちょっとよくわからないから悩んでいた。
委員 8	・今、背景色が銀色なので見えにくい、他の色にすることにできれば見やすいのではないかな。
事務局	・それは可能だと思う。
委員 9	・デザインを作った生徒さんが反転でいいと言っているのなら、それで良いのではないかな。
事務局	・作品はすべて反転で、下地の色を入れるべきかどうかまでは聞いていない。
委員 10	・2つの議論があつて、目立たせることと、マークとして取り出せるかが検討されていると思う。目立たせながらマークとして取り出すためには、下地の部分を生地と同じような青色(ちょっと濃い青とかちょっと薄い青など同系色)にすることでクリアできるのではないかな。それができなければデザインのみの刺繍になるだろう。
事務局	・今のご意見は一旦承って、業者に確認し、例えば青色は青色でも、少し色目の違う下地が入れることができるかどうかを確認させてほしい。そのうえで、できるとなれば検討させていただくということにさせていただきたい。今の議論をお聞きすると、銀色は見えにくいのでよくないだろうということは、一致しているようなので、事務局に一任していただけないかな。
委員 11	・これはプリントではなくて金糸で刺繍しているのか。
事務局	・資料が細かくて申しわけないが、金糸ミシン刺繍となっている。
部会長	・校章をこの色合いにした時に、付随して出てくる影響はないかな。
事務局	・校章を入れた掲示物やノートに印刷する場合は、おそらく黒になるだろう。このあたりは流動的で良いのではないかなと思う。
部会長	・カラーの印刷物に落とす時はどうか。校旗とは別の色を使うのか。
事務局	・原則的には、校旗の色を使うことになると思う。別の色が出てくると難しくなるだろう。
部会長	・となれば、校章の中の色も校旗の下地と同じ色の方が良いのではないかな。
事務局	・もともとの提案がモノトーンのデザインだったので、勝手に色分けをすることは作者の意図に反することになるかもしれない。
部会長	・では、皆さんの意見はお聞かせいただいたということで。
事務局	・下地の刺繍については似た色でということではよろしいかな。
委員 12	・見やすさレベルをあげて、浮かび上がらせた方が良いのではという意見を言った。
部会長	・これだけをもっと濃い色にするとかすると、かえって見にくい。やっぱ背景色があつて、ここに校章を落としているというイメージで。やっぱりその下地と同じ色が良いのではないかな
事務局	・では、色目としてはそういう形にさせていただいて、委員が危惧されている、でこぼこ感については、同じような色合いで、刺繍でできるのかどうかということも確認させていただく。そうするとお金が跳ね上がってとかになるかもしれないので、そこのところは事務局にまかせていただきたい。
部会長	・そのところは、事務局一任でお願いします。次に勝山市立勝山中学校という、横に置くか、縦に書くかについてはいかがかな。
委員 13	・横の方が安定する。(各委員、横が良いと口々に発言)
部会長	・では全員、横文字ということで、横文字でという形で進めてください。それでは、先ほど来、議論になっている色について協議したい。まず、ネクタイのブルーには意味があつたのか。前回の総務部会では、川の水の流れの意味

	であったりとか聞いたように思うが。
事務局	・制服の選定については、子どもたちにアンケートをとって、どれが いいかを決めたが、その制服のセットになっていたのが、そのネクタイであったということ。後付けになるが青色となれば、九頭竜川の清流ということになるが、アンケートの時点でそういった意味を説明して、どの制服がいいですかと選定をしたわけではない。
部会長	・基本的に中学校のスクールカラーは校旗の色からできているのか。
委員 14	・そう。北中については先ほどの議論の通り黒。勝山中部中については紫っぽい青色で、ネクタイもこの一色。南中もえんじ色がネクタイの色である。
部会長	・先ほど委員が懸念されていたように、個人的な、好みがあって、色合いというのが出てくる可能性があるということだったが、前回の会議の時に、どの色が良いかについて意見は聞いてきた。
事務局	・参考までに、なぜ青と緑を提案しているかについて説明する。市民アンケートの中で青と緑が多かったといったが、実は非常に近くて、結果だけを言えば、青色の方が 1 票多というのが正直なところ。1 票の差だったので、緑もどうかと提案した。ただし、厳密に票数でどっちが多かったんだとなれば、青色が多かったということにはなる。
部会長	・今のアンケート結果を踏まえて、ご意見をお聞きできればと思う。
委員 15	・中学校経験が長いので意見を言わせてもらう。スクールカラーを取り入れる場が話題になっていたが、ネクタイは青色だとして、中体連大会の時に、青いユニフォームとか、野球であればソックスに青色を入れるとか、バレーボールとかバスケでは横断幕を青地に文字を入れる。そんなことを自分でイメージしてた。では、どれにするかというイメージがわからなくて、今サッカーもやっているが、そんなことを合わせると、ブルーの方がいろんな場面で使いやすく、勝山はもうブルーだというイメージを作ると良い。実は、自分の前任校はオレンジだったが、部旗も全部オレンジ。体育館に張っても見栄えがする。ユニフォームもオレンジ系のユニホームとして、その学校はオレンジだなというイメージができた。個人的な話で申し訳ないが参考までに。
部会長	・勝山市のコミュニケーションマークは緑が 1 つ、ブルーが一つ、黄色が一つとなっているが、それぞれ意味があるのか。
事務局	・当然、色ごとに意味合いがあるし、その色ナンバーも全部何の何番の何と全部光の三原色の数値が決まっている。
部会長	・今回は勝山市立中学校だが、勝山市のロゴでは、ブルーが頭に残っている。また今、委員が言うように勝山市と言えばブルーというイメージで染めていくということも 1 つの方法だと思うが、皆さんどうか。
委員 16	・勝山と言えば、自然があるので、九頭竜川はもちろんそんなイメージがあるし、やはり空とか、そういう視点で綺麗かといった感覚。
委員 17	・まずは紫系は中部中と似ているので、私としては嬉しいが、やめた方が良い。青色系の方がやはり映える。緑のサッカーチームもあるが、新しいという感じでいいと思う。これは体育館のステージに日の丸の横に常時飾ってる校旗。やっぱりスクールカラーという感じで、子どもたちは常に目にしている。
委員 18	・今、会長が見せた勝山市のマーク。緑はすごく綺麗だが、あれは薄緑で多分校旗としては映えない。そうなると、濃い青のそのマークの 1 つの色が使えるかな、濃い青かなと思うが。
委員 19	・僕は青かなと思った。新中学校がめざす生徒像として 4 C を掲げているが、青色はシアンで勝山の自然の青もあるが、シアンの 4 C としておけば生徒も覚えやすいのではないかな。
部会長	・皆さんのご意見をお伺いするとブルーとなる。まあ、当然、市民のアンケート結果でもやっぱりブルーが多い。自前だが、我が社のイメージもブルー。これは社員全部のアンケートを取った結果で、やっぱり自分たちはブルーという意見が多い。そういう点では勝山は結構ブルーをイメージする人が多い

ようだ。

(全員うなずく)

では、ブルーの中でもその色合いですね。色合いの取り方はどのように決めればよいか。

- 事務局 ・この業者はこの生地しかないので、この色と決めていただいた方がありがたい。今日の意見をお聞きすると、薄い色は映えないので、比較的濃い青がいいのかなと思ったがいかがか。
- 部会長 ・ではハイライトブルーを我々の会議の意見ということとし、準備委員会の方でも協議していただき教育委員会で決定していただくこととします。
- 事務局 ・ありがとうございました。勝山市立中学校のフォントもサンプルとして出してもらっているが、勘亭流がいいのかどうかということも、ここは預けていただけないか。委員の意見もあるようなので、預けていただいてということとで、よろしくをお願いしたい。
- 部会長 ・以上で校旗のデザイン選定については終了させていただく。続いて校歌の作成の状況に入る。

(校歌作成の進捗状況について)

- 事務局 ・まず、これまでの経緯を簡単に説明させていただく。校歌作成に関しても、市民アンケートを取らせていただき、どのような方に制作をお願いして作っていくのがいいのかを聞いている。基本的には、専門家にご依頼して、曲を作っていただく意見があった。もう1つは地元のことをよく知っていच्छる方がいいというような意見も多くあった。そこで、平泉寺町にお住まいの大庭桂さんをお願いすることとした。大庭桂さんはペンネームであり、本名は平泉和美さん。著作権を譲渡していただくというような方向で、今、契約書を交わしているので、今後は作詞に関しては、大庭桂さんではなく、平泉和美さんをお願いすることとする。また作曲については、平泉さんと共作の多い、岩手の姫神さんをお願いすることとした。姫神さんも芸名で、NHKの神々の歌などが有名な方。本名は星吉紀さんで、この方についても、星さんとお呼びさせていただくことにする。そういったことで、順調に進捗を進めていただいている。
- ・歌詞については、ある程度のものを作っていただき、星さんの方に渡され、曲を作っていただいているという状況で、出来上がってきつつあるという状況。スケジュールとしては、冬ぐらいまでには、あらかじめ完成をして学校のに渡したい。
- ・以前から、三学期になってからもらったのでは、いろんなものが混み合うので、それから練習するというのは、負担が大きいというような意見もいただいているので、出来上がり次第できるだけ早めに学校に渡して子ども達に歌ってもらえるような状況を作りたいと考えている。
- ・市民へのお披露目としては、この4月の開校式の時の子ども達の合唱をもってお披露目とさせていただきたい。ただ学校の生徒に伝わるので、子ども達から、どんな校歌だというのは伝わってしまうと思うが、そのところはあまりがんじがらめにせず、自然に広がればいいのかと思っている。全体としてはそのようなスケジュールでいきたいと考えている。
- 部会長 ・校歌について学校の負担のことを考えたときに、ご意見はあるか。
- 委員1 ・以前も話したが、学校としては今の校歌を大事にしたいという思いがある。新中学校校歌については、できれば卒業式が終わってから10日間程度時間があるので、ここから新しい校歌頑張るぞという感じで練習させたい。自分の学校の校歌も卒業式のために練習しながら、新しい校歌も練習するというのは難しい。先に出していただいて、音楽の先生が弾けるようにしていただくのはありがたい
- 部会長 ・学校のことは調整いただいて。

事務局	・作詞、作曲を依頼させていただいた方々それぞれに、とにかく間に合わせなければと、頑張らせていただいている。秋から冬にかけて、お渡しできるようにしたい。
部会長	・開校式直前に渡されるのではなく、ある程度前には学校に渡していただき、そのあと、どのように練習を始めるかについてなど、学校と市教委の間で詰めていただきたい。
委員 2	・スケジュール的なところでわからないことがある。制作をお任せするのはいいが、いきなり完成状態のものが来るのか、それとも、もう少し教育委員会とのやり取りがあって、その初めの段階が大体 9 月ぐらいに来るという認識でよいのか。設計でもいろいろ叩き台があってから、いろいろな意見を組み合わせるから完成といった段階を踏む。音楽業界のことはちょっとわからなくて。
事務局	・作詞者・作曲者とのやりとりは何度もさせていただいている。ただ、音楽作品という性格上、ここだけを変えてほしいといった指摘はしにくい。様々な意見を伝えて作品自体が変わってしまうということになってもいけないので、ある程度お任せをして、出来上がったものを見させていただくという形を取らざるを得ないかなというふうには考えている。
委員 3	・校章の時に一度、頓挫した経験があるので、そのところの保険をかけておかないといけない。それぞれが持つイメージがあるので、出来上がってから意外と暗くないとかの意見が出ないように、例えば教育委員会と音楽の先生とかが意見を交わすことが必要だと思う。
事務局	・少なくとも教育委員会の中では協議する。といっても協議も難しいが、聴かせていただいて誰もがこれではダメだというものにはならないようにしたい。
委員 4	・校歌なので、作詞家さんが作られたものをそのまま受け入れるということにはならないと思う。音楽の先生にも聞いてほしい。
事務局	・作詞家・作曲家さんに作成を依頼した時に、校歌に入れてほしい言葉など、これまでとっている市民アンケートの結果をお伝えして、それを踏まえて作業を進めていただいている。
委員 5	・そのあたりのスケジュールに関して確認を取らないと、12 月になって混乱することが怖い。
部会長	・では、10 月あたりを目途に聞いていただくということで。 校歌というと、作詞・作曲・編曲という言葉も聞くが、このあたりはどうなっているか。
事務局	・詳しくなくて申しわけないが、1 つのメロディーを作って、それを合唱風にしたり前奏や間奏をつけたりして 1 つの曲としてのものに仕上げることを編曲という認識で間違いがなければ、そこまですべてやっていただく契約となっている。 ・吹奏楽部用の楽譜など、何種類かのものを作っていただくこともお願いしている。
部会長	・同じ轍を踏まない。ということで、先ほどのご指摘には配慮いただいて作業を進めてほしい。
委員 6	・本校（勝山中部中）の校歌があるが、作詞が山本和夫さんで、作曲家の中田喜直さん。古い譜面が残っていて、山本さんが書いたものを 1 行、歌詞を変えて完成形にしている。誰かが、なんらかの段階で変えたものと思われる資料が残っている。
部会長	・事務局のほうで、出てきたものを精査していただくタイミングを入れていただくということをお願いしたい。
事務局	・著作権については、ジャスラックに登録をすると、権利は守られるが使用するたびに申請をしないといけないというようなことなので、権利は勝山市や学校に譲渡いただく形をとる。この場合、著作権は誰にも守ってもらえなくなってしまうので、違法に使われるということがあれば、自分で交渉しなけ

ればならないことになる。校歌の悪用は考えにくく、自由に使えたほうが使いやすいだろうと考え、譲渡いただく契約をさせていただいている。

部会長 ・ それでは、校歌の進捗状況については、以上とし、校訓の方の説明をお願いします。

(校訓について)

事務局 ・ では、私から説明と提案をさせていただく。まず資料4と資料5。資料4は今年の1月第6回の部会で初めて提案した素案。表は目指す学校像と生徒像、それから今の三中学校の校訓を参考として載せた。校訓なので事務局としては、目指す生徒像を4つ掲げているが、これを具現化する言葉がいいのではないかと考え、いろいろと考えたのが裏面になる。

- ・ まず1文字だけの挑・協・敬・志。これは4つの生徒像それぞれを象徴する1文字ということで考えたもの。2つ目は、2文字の言葉。3つの組み合わせや2つの組み合わせがあるが、2番目は挑志・共創・敬愛。挑志は、挑戦の挑と志で、生徒像でいうと1番と4番を表している言葉。共創は3番など。そういう意味づけの言葉として、組み合わせを素案として出させていただいた。その時に、いただいた意見が、まず校訓というのは、親しみやすい言葉、意味が理解しやすい言葉の方がいいであろうということ。そういう意味では、辞書にあまり載ってない言葉よりは、普段、目にした言葉や、使ってる言葉がよいのではないかとというようなご意見。それから1文字4つよりは2文字で3つぐらい並べるのがよいのではないかとという意見。今の三中学校もそういう形で、北部は1文字だが、そんな方がよいのではないかなという意見。それから掲げた言葉の中では、協創とか、敬愛とかいう言葉は、割と受け入れやすいのではないかとという意見。挑志については、造語に近い言葉だが、挑という言葉が少しきつく感じられたのか、あまり聞き慣れないし、どうかという意見。むしろ、立志など昔からある言葉の方がいいのではないかという意見。そんな意見をいろいろいただいた。今回、これを踏まえて提案させていただくのは、資料6という一番最後になる。
- ・ 考え方は同じで、目指す生徒像を具現化したいということで提案をさせていただくのが、立志・敬和・協創。立志は、生徒像の1番、4番を具現化したもの。自分の将来をデザインし、目標に向かって自信を持って粘り強く学び続けるというもので、個の自立と挑戦を示す言葉として立志。それから敬和は生徒像の3番。お互いの良さを認め、心を通わせてともに関わり合う人間関係の土台の部分を示す。協創は生徒数の2番。多様な他者と共同し、主体的に考えながら、新しい価値を創造していく社会で必要な力を表す言葉というような意味づけでこの言葉を考えて。立志・敬愛・協創の並び順にすると、中学生に説明するときには、次の3つの成長のステップとして語ることができるのではないかと考えた。
- ・ まず、自分自身の目標をしっかり持ち、そのために、仲間とお互いを尊敬、尊重し合い、みんなで力を合わせて、新しい未来をつくろうというようなストーリー。
- ・ それから、類義語と三番目に書いたが、敬和と似た言葉に敬愛という言葉がある。イメージとして敬和は、一人ひとりを尊重することで集団の中に協力関係を生み出すといったイメージになる。敬愛という言葉になると、もうすこし広く、人に対して心からの尊敬と、親しみの気持ちを持つというイメージになる。中学校の校訓なので中学生に示すということであれば、集団の中で協力関係を生み出していくために、お互い尊重、尊敬していく方が中学生には合ってると考え、敬和という言葉がいいのではと考えた。
- ・ 協創と共創は「きょう」の字が違うが、まず、協力の協創は、同じ目的目標に向かって、みんなで役割分担し、協力して取り組むというイメージ。共にという方の共創は、多様な価値観を持つ人たちが、立場を超えて対等に交わり新しい価値を生み出すイメージなので、やはり、こちらの方が広く普遍的

	なイメージの言葉と考えた。中学生に対しての言葉と考えた時には、協力の協を使った方が子ども達の学校生活の中でも生きるのかなというイメージで、事務局として新しい案を提案させていただく。裏面は、前回と一緒に、目指す生徒像や現中学校と勝高の校訓を出した。参考としてご覧いただきご意見をいただきたい。
部会長	・ 私たちとしては立ち入りにくい領域だが、今、事務局から説明があったとおり、市の案としては、この立志・敬和・協創を新中学校での教訓としてはどうかという話だった。説明いただいた件の他にも、校訓というものに対しての捉え方をこうした方がいいのではないかとこのところでご意見等あれば伺いたい。何かお話しいただければと思うが。
委員 1	・ 今の事務局の話を聞くと、納得はできる。
委員 2	・ 伺いたいのは、校訓がこういう意味だと生徒にどういう場面で説明があるのか。また毎回どこかに掲示したりしてあるものなのか。
委員 3	・ 日記帳をめくると、校訓が一番上にあって、その次に学校教育目標、研究主題などが枝分かれしていく。校訓に従っていろいろな計画を立てていく。私の場合は入学式で、校訓を紹介して意味を説明し、頑張りましょうという話をする。また、学校教育目標をちょっと説明するときにも校訓を出して話をする。勝山中部中の校訓は初めは 2 つだけだったようで、共同がなかった。それがどんと体育館に張ってある。体育館の左手が校歌で右手が校訓となっている。
委員 4	・ 生徒像や学校像は学校は新中学校を建てるまでの目標で、学校ができてから別のものができ、教育目標とかにも関わってくるようなものなのか
事務局	・ 学校ができて、ずっと学校の目標として掲げていくものだと思うている。
委員 5	・ 中学生が覚えやすいという意味で漢字 2 文字が良い。自分も前任校も漢字 2 文字が 3 つで浮かびやすい。もちろん、体育館で提示されると思うし、教室にも額に入れて毎日見ていると子どもたちは覚えやすい。
委員 6	・ 勝山高校は新しい学校を作った時にコンセプトとして進化の中で進化するを作った。それでシンカを進化、深化、伸化、新化、とした。校訓のは まこと【真・誠・信】。これは、その創立以来使っていて、こういう意味がありますと入学式で話をする。創立何年誌とかを見ても、この学校を作ったときに、その初代の校長先生がその思いを伝えている。体育館には額がなくて階段のところに書いてあるのがある。体育館に校歌と校訓の大きなものがあるというのが、どの学校も多いと思う。
部会長	・ 今更だが、体育館は高校のものだと思うが、そこに中学校の校歌や校訓を掲示することはできるのか。
事務局	・ 相談させていただかなければいけないと思う。
部会長	・ 校歌を歌うのは体育館。一番歌う体育館に歌詞があるべきではないか。 (多目的室 大階段 などざわざわ)
委員 7	・ 校訓の案は素晴らしいと思う。南部と中部と北部もよく似たことを言っているし、違和感は全然ない。これが何十年と受け継がれる。
委員 8	・ 目指す生徒像との関連はやっぱ大事なので、もし可能であれば、生徒像の順番を入れ替えて、わかりやすくしてはどうか。立志ならば、1 と 4 を前にして、チャレンジ・キャリア・コミュニケーション・コラボレーションとしてはどうか。
事務局	・ おっしゃることはよく分かるので一度考えたい。生徒像の 1, 2, 3, 4 は全く対等ではなくて、力を入れたいところとかはあるので、その順番にしたが、説明したりするということを考えるとご意見も分かる。一度並べ替えてみて、違和感があるかないか吟味したうえで考えたい。
部会長	・ 重み付けもあるようなので、ご検討いただくということをお願いしたい。
事務局	・ この件についても、最初の校旗と同じで、この会としては意見をいただいて、再編準備委員会です承いただくことにさせていただきたい。またその結果は教育委員会の方で報告させていただく。

部会長	・生徒像の並びについて検討いただくということで、事務局から提案いただいている。この立志・敬和・協創の提案について、この総務部会として準備委員会に提案いただくことを承知いただくということでよろしいか。 (全員頷く) では、そういうことで進めていただければと思うのでよろしくお願いします。議案はこれですべて終了。本日はお忙しい皆さん、本当にありがとうございました。
-----	---

資料１．校旗作成に係る背景色（スクールカラー）についての協議概要

資料２．勝山中学校校旗案１

資料３．勝山中学校校旗案２

資料４．校訓（素案）

資料５．校訓に関する協議概要

資料６．校訓（案）